

# 音楽科の主張

## 1 教科で育みたい人間像

音楽は、音を媒体としたコミュニケーションです。音楽を「つくる人」「演奏する人」「聴く人」の気持ちは、感動によってつなぐことができます。この感動には、人を育む力があるのではないのでしょうか。

人は人とのかかわりの中で、尊敬の念を抱いたり、感銘を受けたりすることを繰り返して成長していきます。そこで、音楽科では「音楽による感動を味わい、人とつながることのできる人」を育みたいと思います。

音楽によって感動する場面は人それぞれです。美しい音楽や迫力のある演奏を聴くことで心地よく感じる人もいます。難解に聴こえる楽曲を自分なりに分析し、その意図を探ることに喜びを感じる人もいます。さらに、同じ楽曲を聴いても人によって感じる点が異なります。しかし、音楽によって心を動かされている点では同じです。

音楽には、リズム、旋律、ハーモニーなどの諸要素から構成された美しさが内在しています。そ

れに加えて、演奏者の楽曲への思いからあふれ出すエネルギーがあります。私たちが音楽によって感動するとき、これらの美しさやエネルギーに心を動かされているのでしょうか。しかし、そのように感動をもたらしてくれる音楽も、演奏が終わると消えてしまいます。

人によって感じ方が違い、演奏が終わると消えてしまう音楽ではありますが、「この感動を伝えたい」という思いをもって試行錯誤することで、自分の感覚でしかなかった感動を音楽で表現することができると思います。

このように、聴き手に感動を伝えようとするつながりにも、よりよい表現（感動）を求めて、音楽をつくりあげようとするつながりにも、人を育む要素があるのです。

このような音楽科の学びを通して「音楽による感動を味わい、人とつながることのできる人」が育まれることを願っています。

## 2 私たちが大切にしたいこと

「音楽による感動を味わい、人とつながることのできる人」になってほしいと考える音楽科の授業では、「音楽でつながる」をテーマに、まず、「子どもたち自身が感動を味わうこと」を大切にしたいと考えています。音楽で感動を伝えたいことが、よりよい表現を追求していくための前提となるからです。

そして、仲間とともに音楽をつくりあげる際には「どのように伝わるかを意識して、音で試行錯誤すること」を大切にしたいと考えています。音を出し、それを聴きながら試行錯誤することで、自分の考えた表現と仲間の考えた表現を比較したり、すり合わせたりして、よりよい表現をつくり

あげていくことでしょう。

そのような試行錯誤の末には「仲間と心をつなげていく」という感動を味わう瞬間が待っています。さらに、聴き手に感動が伝わったと感じられたときには、より大きな充実感を得ることができます。このような充実感は、よりよい音楽表現を求める原動力となり、さらなる試行錯誤につながっていくでしょう。

子どもたちがそのような感覚を味わえるように、感動体験のできる音楽活動の機会を保障したいと思います。また、支援が必要な場面では、子どもたちの思いと音楽表現をつなぐために「音楽の専門家」としてかかわっていきたいと思います。

